

埼玉新聞

2015年 5月17日
(平成27年)

きょうは何の日
世界電気通信の日、ボ
ングWBA世界戦さい
で内山初防衛(2010年)

埼玉新聞社
本社代表

童謡の
道の駅
県道46号埼玉
加須市佐
TEL: 0480

7 川越東 快
第67回春季関東
高校野球大会が開
幕し、初出場の川
越東が2回戦で相
模原(神奈川)に
8-0で快勝し、
初のベスト8進
出。聖望学園は作
新学院(栃木)に
1-2で敗れた。

14 東秩父で
東秩父村和紙の
里で、「和紙の里
文化フェスティバル」が始まった。細
川紙などの「和紙
日本の手漉(て
すき)和紙技術」
のユネスコ無形文
化遺産登録を記念
した特別企画。

空き家を交流の場に

浦和区仲町3丁目

「新たな縁」求め計画始動

さいたま市浦和区仲町3丁目、知事公館南のはず向かいで、空き家を交流の場として活用する試みが始まっている。運営しているのは高齢者の暮らしの相談に乗る一般社団法人コレカラ・サポート(千葉晃一代表理事)。プロジェクトは「縁」(縁「Entry(エントリー)」の頭文字をとって「en(えん)プロジェクト」と名付けられ、誰もが自由に利用できる憩いの空間の創出を目指している。

(新井護)

■故人の遺志を継いで

この家に一人で住んでいた84歳の女性が亡くなったのは昨年12月。かつては茶道の師範として教室が開かれ、多くの人がたどりにきわっていたという。女性は遺言を残しており、代表理事の千葉さんは女性に「別な場所に住んでおり、今まで多くの方々にお世話になってきた。自分が住むより、皆さんに開放できれば母も喜ぶと思う」と千葉さんに話し、プロジェクトは動きだした。

■初対面の不思議な輪

建物は築約25年の木造2階建て。1階には畳敷きの茶室があり、これを生かした空間づくりを目指すこととした。千葉さんらは内部の片付け

作業を行いながらインターネットで情報発信。3月初旬から内部を公開利用を呼び掛けてきた。4月19日に開催した見学会には、ウェブサイトで情報を知った延べ約50人が訪れ、ほぼ初対面の参加者がくつろぎ、輪になって話す不思議な光景が見られた。参加した30代の自営業男性は「不安の多い現在、誰かと話したい、話を聞いてほしいという欲求を持つ人は多いのでは」。40代女性は今年3月、図書館司書として25年間勤めた公務員を退職。「本を通じて人と触れ合えた原点に戻りたい。ここでそれができたらうれしい」と話し、現在はスタップとしてプロジェクトに参加する。

■誰もが話せる場所に

グループは施設運営のための「enプロジェクト」を支える会」を設立し、会員を募っている。

今年23、30日にも見学会を開催。6月3日の利用開始に向け、多くの人々にこの場所を知ってもらいたいとしている。



茶室だった和室を生かして憩いの場を創出。今後は見学会が行われ、6月3日にオープンする。さいたま市浦和区仲町3丁目

さいたま市内の空き家事情 総務省の2013年度調査によると、さいたま市内には約57万軒の住宅があり、全体の約9.9%、約5万6300軒が空き家で、空き家率は全国政令市の中で最低水準にある。別荘や賃貸、売却用などを除き、高まることが予想される。